

落葉樹 の 冬 と 夏 (センダン)



冬には葉を落し、柔らかな光が地上に届く



夏 強い日差しを遮り 木陰を提供(7月30日)

夏、太陽を遮るものが少ない中、貴重な木陰を提供していたセンダンの木。今はすっかり葉を落し、柔らかな光を地上に届けている。センダンは荒れ地に強く、成長が速いため「共生の森」の草原にいち早く定着した樹木のひとつで「共生の森」の森を代表する樹のひとつでもある。

植栽したセンダンはなく、最初は鳥が種を運んできたものが芽生えた。現在では鳥とタヌキがその種をせっせと拡散している。まだしばらくセンダンの時代は続きそう。

見かけた植物・生き物



オニグルミ



イヌビワ



ハゼノキ



タラノキ



センダン



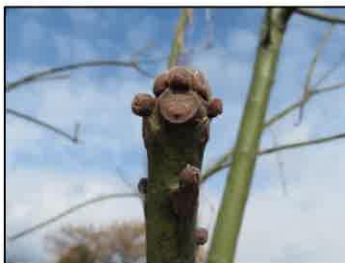
クヌギ



イチジク



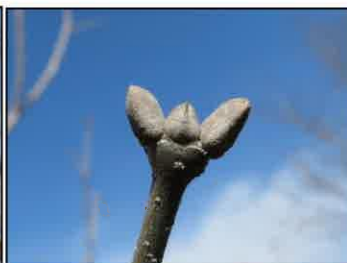
シンジュ



アオギリ



ヌルデ



マルバアオダモ



シナサワグルミ



ウメ



スイセン



ナンキンハゼ



ツグミ

動物の痕跡



ヌートリアの通り道



ヌートリアの足跡



タヌキ



タヌキの足跡



イタチの糞



イタチの糞にあった爪？



タヌキの糞

生き物の姿を見る機会が少ない2月。でも、よく見ると哺乳類の痕跡があちらこちらで見られる
 ○水辺にはヌートリアの足跡があり、通り道の真ん中にはシッポの跡がついている。
 ○J山では2組のタヌキのペアが歩いていた。この時季のタヌキの糞にはセンダンの実が混じる。
 ○イタチの糞の中には、鳥か何かの爪のようなものが混じっていた。

見かけた植物・生き物



メジロ(セイカアワダチソウの実)



ノスリ



ムクドリ



スズバチの巣



ウメ



ナワシログミ



ヤブツバキ



スイセン



エノキ



ナンキンハゼ



アキニレ



ヌルデ



センダン



アオギリ



シナサワグルミ



クヌギ

サクラ(バラ科)



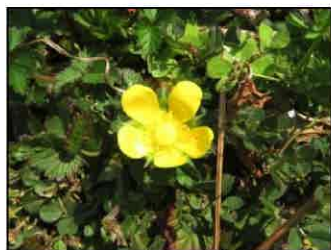
この時季「共生の森」での活動が少ないこと、花の期間が短いことから、「共生の森」でサクラをあまり目にする機会がない。「共生の森」には、少なくとも4種類程度の桜が生えている。一番大きな桜の木は写真のピンクの八重桜。J山の海側のKポンドに自生している。この木は人が植えたものではなく残土に紛れてきたか鳥に運ばれてきたもの。

サクラの花の季節を境に「共生の森」は草花が年中で一番多く咲く季節がやってくる。

見かけた植物・生き物



オオマツユキソウ



ミツバツチグリ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



オオイヌノフグリ



フラサバソウ

タヌキ



タヌキが草をはんでいた。くわえているのはカラスノエンドウ (J山)



キジ



キタテハ



セイヨウタンポポ



ハナニラ



セイヨウカラシナ



サンシュユ

ヌートリア



Q池で4頭のヌートリアが泳いでいた
思いのほか長く水に潜る

タヌキの ため糞 現行犯



「共生の森」では、ここ数年タヌキのため糞を見ずに1日、過ごせることはなかったが、最近では、さらにタヌキ密度が上昇しているようで、タヌキを見かけない日はない。

この日は、5頭のタヌキを見かけた。うち4頭はペアであった。

写真のタヌキはJ山から海側へと、ペアで道を横切った。1頭目はため糞を素通りし写真の2頭目はため糞場に、あたりまえのようにフンをしていった。縄張り主張の為、パトロールのたびにフンをするという訳でもなさそう。長らく使用しているため糞場には草が茂り、センダンなどが生える「ため糞群落」ができていく個所もある。

見かけた植物・生き物



ヒゲナガハナバチ



毎年この時期に見かけるハチ。あちこちの地上付近で群れていた。



センダン



来月の今頃は新緑に包まれている

ハラン (キジカクシ科)



抗菌性があることから寿司や料理の仕切りに使われてきたハラン。最近、ビニール製の代替品が弁当などに入っているのを見かける。

「共生の森」ではUポンドにひと塊のハランが生えている。根元に、ちょうどスダチのような実が一つになっていた。ハランの受粉については、ダンゴムシ、ヨコエビ、はたまたアリが媒介を行うなど色々な説があるよう。

ハランは「共生の森」にどのようにやって来て、今なっている実は、何者が受粉させたのでしょうか。

見かけた植物・生き物



センダン



ハマヒルガオ



セイヨウヒキヨモギ



ザクロ



コバンソウ



ビワ



ドクダミ



スイカズラ

アキニレのレストラン



アキニレの樹液に ゴマダラチョウ、コアオハナムグリ、アオヒメハナムグリが集まっていた。



←コアオハナムグリ
裏面 黒色
アオヒメハナムグリ
裏面 ワインレッド



ギンヤンマ



シオカラトンボ



コフキトンボ



ショウジョウトンボ



ヒメアカタテハ



ベニシジミ



カタツムリ

センダン



センダンの花が満開

ショウジョウトンボ (トンボ科)



この時季見かける赤いトンボはショウジョウトンボ。「共生の森」で最もよく目につくトンボ。オスは全身、真っ赤。目から足まで赤くなる。晴れた日は、水辺近くをパトロールし、他のトンボがやってくると縄張りから追い払う忙しい日々を送っているが、この日は朝から雨の為、草に止まって静かな時間を過ごしていた。雨の日の「共生の森」はいつもと違った生き物の姿を見ることができ、雨もまたおもしろい。

見かけた植物・生き物



チョウトンボ



シオカラトンボ



タイワンウチワヤンマ



タイリクアカネ



ツバメシジミ



ウラナミシジミ



ベニシジミ



モンキチョウ・アメリカオニアサミ

ヤマグワ (城山高校エリア)



大阪近辺でとれた植物の種から育てた、ヤマグワの実がなっていた。



ネムノキ



アメリカノウゼンカズラ



トウネズミモチ



ウイキョウ



ヒルザキツキミノウ



ナンテン



ヒメスズメバチ



カワウ

ずぶ濡れ タヌキ



タヌキの行動に雨はあまり関係なさそう

アブラゼミ (セミ科)



この日の最高気温は 36.1℃ (大阪管区気象台: 観測地: 堺)。例年の夏ではベスト5に入るような気温の高い日でした。この日「共生の森」で鳴いていたセミは、クマゼミとアブラゼミ。

「共生の森」に木が育ち始め最初にやってきたのはクマゼミ (平成 20 年にはいた)。アブラゼミはクマゼミよりももう少し森林環境が整う必要があったようで平成 23 年に現れた。平成 24 年にツクツクボウシが、平成 27 年にはニイニイゼミが現れ周辺に住むセミが出そろった。

アブラゼミは、府内の都市部では数が少なくなっているといわれる。

「共生の森」では今年の夏も鳴いている。

キアゲハの産卵



ウイキョウ に産卵する キアゲハ



ヘクソカズラ



フヨウ



ヒルガオ



クズ

見かけた生き物・植物



マダラ模様のショウジョウトンボ



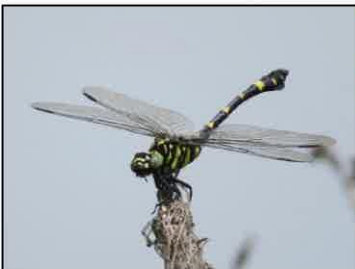
シオカラトンボ



ノニンジン



ハナハマセンブリ



タイワンウチワヤンマ



ギンヤンマ



ベッコウハゴロモ



シウリョウバッタ



トノサマバッタ



マイコアカネ



アオモンイトトンボ



大きな獲物

うっかりオニグモに捕まってしまった クマゼミ

セミの抜け殻



「共生の森」に木が育ち始め最初にやってきたのはクマゼミ（平成20年にはいた）。クマゼミよりももう少し森林環境が整った平成23年にアブラゼミが、平成24年にツクツクボウシが現れた。

一方、「共生の森」で最初に確認した抜け殻はクマゼミの抜け殻で平成24年に見つけた。そして今年、初めてアブラゼミとツクツクボウシの抜け殻を確認。

「共生の森」でセミの循環が確実に進んでいる。近い将来、平成27年にやってきたニイニイゼミの抜け殻も見つかるでしょう。

見かけた植物・生き物



クサギ



フヨウ



ヤブガラシ・コアオハナムグリ



ハリウツギ



イヌビワ



イチジク

ウグイス



数羽で枝葉のあいだを忙しく



ツクツクボウシ



クマゼミ(7月の勢いは無い)



マイコアカネ



イチモンジセセリ



猛禽類に襲われたトバト



8月が一番、植物が繁茂する季節

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)



お彼岸は過ぎたが、「彼岸花」が満開。
 ヒガンバナは水稻などと同じく古い時代に中国から持ち込まれた史前帰化植物のひとつとされ、大阪では田畑の畔などで普通に見られる。
 ヒガンバナは「共生の森」へは残土に紛れてやってきて、「共生の森」に木が無かったところから所どころで咲いていた。
 種は実らず球根で増える。以前より花の数が多くなった気がする。ここ数年、白いヒガンバナも見かけるようになった。
 日なたを好むヒガンバナは、木々が大きくなるにつれ数を減らす植物かもしれない。

タイリクアカネ



ツクツクボウシ



フタモンアシナガバチ(オス)



チャバネセセリ



エビガラスズメ

見かけた植物・生き物



タマスダレ



フヨウ



トノサマバッタ



ウラナミシジミ



キアゲハ



ランタナ クマバチ



イヌタデ



マルバハギ



アレチヌスビトハギ



オッタチカタバミ

タヌキの ため糞 カタツムリ



ミカン



イタドリ アオヒメハナムグリ



タヌキの糞に大量のカタツムリの殻が混じる

台風21号による受難



この日「共生の森」に行くと、木が倒れたり、幹が折れたりしていた。原因は超大型で強い台風21号によるもの。

倒れた木や折れた幹は南方向を向いている。倒れた方角から倒れた時刻を推測すると「共生の森」で北の風が吹いたのは台風が熊野灘を通過した23日0時ごろ。(中心付近 945hPa)

この時間帯に「共生の森」の植物たちはいろいろな受難を受けていた。

ワシントンヤシの中には強風によりマントをはぎ取られ、すってんてんになったものも。すっかり姿を変えたものがたくさんみられた。

見かけた植物・生き物



幹が折れ南側に倒れた木

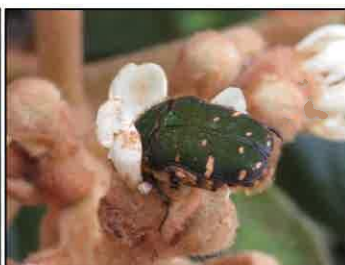


ワシントンヤシ

マントをはがれた



台風により落ちたカリン



ビワに潜る コアオハナムグリ



セイタカアワダチソウ 以前の勢いはない



トキワサンザシ

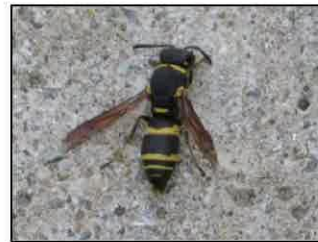
ハヤブサ



スズバチ



オオセイボウ(スズバチに寄生)



ミカドドロバチ



ヒメアカタテハ



タイリクアカネ



ヤマトシジミ



哺乳類のフン



ススキ



秋も深まる

ここまでよくがんばった(ウラナミシジミ)

コミミズク (フクロウ科)



H23 10月



右翼



残された骨

モズの はやにえ



南方系の 赤いはねの オンブバッタ

毎年、冬よりもひと足早く「共生の森」にやってくるコミミズク。

今年もやって来るかと心待ちにしていたところ、見つけたのは猛禽類に襲われた現場だった。残された骨に付いた血の色から、やられてから数時間しか経っていない新鮮な状態。

上の写真は最初に襲われた場所。ここから30mほど離れたところに右翼を食べた場所があった。羽と一部の骨を残してすべてたிராげている。一片の肉のかけらもない。

遠くシベリアからやってきたコミミズク。平和に見える「共生の森」も野生の生き物にとっては、いろいろな危険が待ち構えている場所でもある。



ハシビロガモ(冬鳥)



タヒバリ(冬鳥)



ムートリア



アオヒメハナムグリ

見かけた植物・生き物



アキグミ



ノイバラ



ナンキンハゼ



アキノレ



トベラ



ヤツデ



ナンキンハゼ



寄り合い

ここ数週間の冷え込みで昆虫の姿が少なくなった

ベニシジミ (シジミチョウ科)



「共生の森」では3月の初めから12月までほぼ一年中みられるチョウ。したがって「共生の森」でもっともよく見かけるチョウ。

幼虫はタデ科のギシギシなどを食べる。「共生の森」が草原の頃からいたチョウで「共生の森」に最初にやってきたチョウのひとつ。環境の変化に強いものと思われる。

大阪府内でも普通に見かけるチョウ。かつて、普通切手(30円)の図柄になったこともある。

ネコ



よく見ると、藪の中にネコがいる(初見)



ツグミ



ジョウビタキ

見かけた 生き物・植物



ウラナシジミ



ハラビロカマキリ卵塊



ナンキンハゼ



トウネズミモチ

Uポンド と Q池



クサギ



イヌビワ



Uポンドは自然に生えた木が育っている区域でなるべく人の手を入れない区域。木がだいぶ大きくなった。

Q池は自然に沈下して水がたまった池。水質の影響で生き物がなかなか定着しないと思われていたが、ヌマエビや魚が見つかった。最近ではヌートリアをよくみかける。



マユミ



ナンテン